

第2回 「多様性について」 (2026.01.24 開催)

<概要をまとめる意義>

以下、今回の哲学カフェの内容について概要をまとめる。

これは議事録ではない。迷ったら何度もここに立ち返り、その内容を容赦なく批判し、議論しなおし、更なる”問い”の根源へ一歩でも近づくための手掛かりとしてほしい。

<多様性について>

多様性という言葉の正体を掴もうとした議論が進められたが、結論としては「曖昧さ、ゆえの危うさ」に気づけたということが大きな収穫だったように思える。巷では多様性という言葉が繰り返され、ともすれば場を治めるための道具になっていることもある。本来は、それぞれが違った「個」を発揮し、「全体」として見れば大きな輝くというような、アリ(個)と鳥(全体)の視点を行来するイメージに近い気もするが、現状は企業のイメージアップや自己演出のために消費されている場面も多々ある。

また、一個人の中にも多様性は存在する。家、学校(職場)、一人の時間、全てで一貫した性格という人間は存在せず、場によって複数の仮面(ペルソナ)を使い分けることで何とか自分の精神を安定させているという事実も、多様性という言葉に説得力を与えている一面もあるだろう。

これだけ、幅広い範囲になじむ‘多様性’を扱いやすくするには、まずは多様性という言葉が”何の”多様性を指しているか、またその多様性が”何を豊かにしているか”を常に注視してみなければならない。

白黒わけないことが大好きな私たちの社会が、その言葉の曖昧さにかまけてしまわないように、その言葉を悪用されないように、自戒をこめて議論を閉じた。

<“多様性”を読み解くキーワード>

- ・多様性の受け手側または発信側として私たちはどうふるまうか？
- ・多様性を拡大させる局面と、守る局面ではその意味合いも違って来るかもしれない
- ・小さい組織と大きい組織では、そもそも考えている多様性の中身が違うのではないか
- ・多様性は尊重すべきだが、強制はできない
- ・多様性が企業の出汁に使われている
- ・多様性とは相互補完なのか
- ・多様性と統一性の振り子

これらのキーワードから、新たな”問い“へ変換した。

<新たな問い>

- ・多様性という言葉を使わずに、多様性を説明できるか？
- ・多様性を突き抜けた先に何らかの統一性は見いだせるのか？
- ・多様性はどこまでが尊重で、どこからが強制になるのか？
- ・統一性もまた一つの多様性として認められるか？
- ・多様性の目的を相互補完とした場合、最終的に一つの塊となって結局は多様性が失われるのではないか？
- ・「多様性」を追求するほど、求められるのは「個」としての主張ができるかということ。